



ラスカー君

カラス カンナ ガワ

鳥・神流川だより

国土交通省 高崎河川国道事務所



カンナちゃん

第42号 H19.12.20

入賞おめでとう

「第11回ダムと川の絵コンテスト」表彰式



高崎河川国道事務所と利根川ダム統合管理事務所の共同主催により実施した「第11回ダムと川の絵コンテスト」は、10月20日高崎サンパレスにおいて表彰式を開催しました。

絵を描くことを通し、ダムや川に親しみを感じ、その役割や必要性などに興味を持ってもらおうと、夏休み前に群馬県内の小学生に作品募集し、9月18日厳正な審査の結果38点の入賞作品を選定しました。

生きいきと水辺の風景画が一同に！

参加者達は、会場に展示されたそれぞれの作品に見入っていました。



お礼の言葉を言う
6年生の山崎莉穂さん

応募総数
473名

応募学校数
44校



表彰式を終え全員で記念撮影

入賞作品展示中！！

入賞作品は、平成20年1月31日まで「川と道の情報館」と高崎河川国道事務所において展示しています。すでに後半の展示期間に入り、現在は川と道の情報館に4～6年生の作品を、高崎河川国道事務所に1～3年生の作品を展示しています。

また、利根川ダム資料館でも地区別に全応募作品の展示を行っていますので、ご案内します。展示についての詳細は各事務所HPでご案内しています。

高崎河川国道事務所 (<http://www.ktr.mlit.go.jp/takasaki/>)

利根川ダム統合管理事務所 (<http://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/>)

最優秀作品



1年生 林 里音 『カヌーをしたのしかったよ』
(みなかみ町立須川小学校)



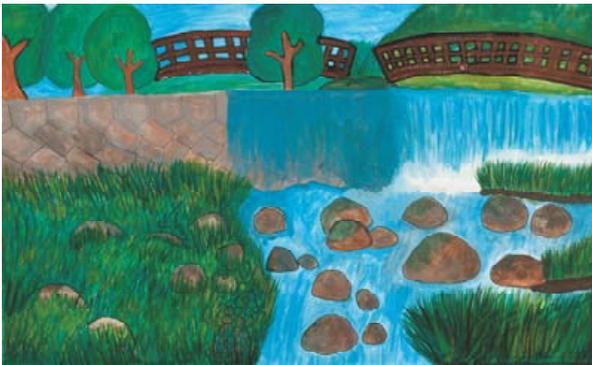
2年生 穴澤昌樹 『ゆたかな川』
(渋川市立小野上小学校)



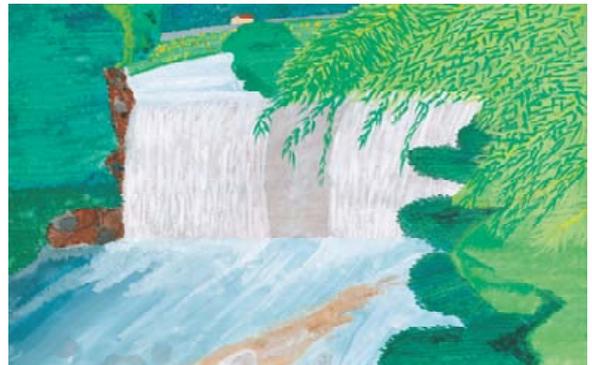
3年生 久佐拓己 『大きなダム』
(渋川市立小野上小学校)



4年生 重田和希 『山の中の桐生ダム』
(桐生市立東小学校)



5年生 森田詩穂 『大さる山の思い出』
(みどり市立笠懸小学校)



6年生 山崎莉穂 『薄根川』
(沼田市立沼田東小学校)

ドキドキ、ワクワク、ドキドキ

「第11回ダムと川の絵コンテスト」

施設見学会

ワクワク、ドキドキ、ワクワク



さあ！湖上探査に出発



高いなあ～

表彰式終了後は、水資源機構下久保ダム管理所のご厚意により、下久保ダムの施設見学会を実施しました。
まずは救命胴衣を装着して、ボートに乗り、湖を一回り。順番を待つ間に水質調査も体験しました。
次は、ダム堤体の頂上からエレベーターで93m降りて、堤体内の通路を抜け、減勢池へ向かいました。
堤体内部温度は真夏でも15℃位という説明にビックリ。
外へ出ると、93mのダムの高さに圧倒されます。
放流の時、ただ水を流したのでは水の勢いで川の両岸が削られてしまう為、減勢池が造られているそうです。川はまだその20m下になるという説明でした。
ダムに貯えられた水圧で、満水時はコンクリートの堤頂部が約4cmも下流側へ傾くという説明にまたまたビックリ。
水の力って、本当にすごい！
下久保ダム管理所では「ダムの話」も聞きました。
次の目的地は、譲原地区にある地すべり資料館カッピーです。地すべり災害とその対策について施設見学しました。



譲原地すべり資料館カッピーを見学

基調講演

群馬県の気象と災害

～台風被害と防災の歴史～

気象予報士 田代大輔さん

これから来る台風の傾向は、地球温暖化の影響で今後海水温が高くなり、加えてエルニーニョ現象時のような海水温分布になると予想されます。この場合、台風の発生数は少なくなります。が、勢力は強まると考えられており、大きな災害がおきる可能性があります。

災害を防ぐためにはまず警報を聞き警戒することが大切。警報の歴史は情報伝達の歴史。気象情報を早く、分かりやすく、正確に伝える。今後は行政と住民の情報交換も必要。住民自らが被害状況等を発信し、地域全体で共有する意識を持つこと。

日頃から気象、防災情報に関心を寄せてほしい。

災害に学び万全な備えを

今年9月、台風9号が関東地方を直撃しました。群馬県南西部を中心に土砂崩れや浸水被害など大きな爪後を残しました。今回得た教訓を今後の備えに生かそうと、高崎河川国道事務所は11月16日、高崎シティギャラリーで「防災・減災フォーラム2007in群馬」を開きました。基調講演とパネルディスカッションの2部構成で4人の専門家が「台風9号に学ぶ～高めよう地域防災力～」について議論を交わしました。

パ	ネ	ル	デ	イ	ス
コーディネーター 小林 忍 上毛新聞社論説委員長	パネリスト 田代 大輔 気象予報士	パネリスト 座間 愛知 高崎市副市長			
台風9号を検証	気象上2つの特徴がありました。先ず接近前から山沿いを中心に大雨が降り、強い勢力のまま関東を通過した。ラニーニャ現象が発生し、太平洋の海水温が変化し、日本の近くで台風が発生する傾向にあった。	高崎市では、台風通過の3日間の総雨量が240.5 ^{mm} にも上った。山名地区を流れる鐮川で水位が上昇したため、約400世帯約1500人に避難準備を発令。対策本部を設置し、情報収集に努め、住民に対して的確に情報伝達できた。			
災害はなぜ起きる	日本列島は、性質の異なる空気がぶつかり合う場所のため、雨が降りやすい。地球温暖化が進むと大雨の頻度は増えると予想されている。	烏川や鐮川などの、浸水想定区域を基に、今年度末までに洪水被害の予想や避難場所を記載した洪水ハザードマップを作成し、各家庭に配布予定。			
地域防災力を高める	普段から天気予報を見る習慣を付けてほしい。何が正しい情報なのか、判断できる力を養ってほしい。	市、県、国が協力して防災体制を整えていくが、災害に対して機動的に対応するには、自助、共助という考えも大切。高崎市ではつい先日、市内のデパートや大型ショッピングモールと、災害時の物資提供について、災害協定を結んだ。			

～ 高めよう地域防災力 ～

平成19年11月16日



小林さん

座間さん



田代さん



清水さん

前佛所長

カ	ツ	シ	ヨ	ン
<p>パネリスト 清水 義彦 群馬大学大学院工学研究科准教授</p>		<p>パネリスト 前佛 和秀 国土交通省高崎河川国道事務所長</p>		
<p>南牧村や藤岡市などで、沢が崩れ土石流のような災害が起こりました。土石流の材料となる石や流木が沢に溜まっていることが発生条件の一つだが、山間部の沢では、永い年月をかけて着実に蓄積され、次の災害に向け準備が進められている。</p>		<p>鐺川の山名観測所では、水位が氾濫危険水位を超え、通常より4m高い5mに達した。その周辺で今年6月に堤防が完成した地区は、浸水被害を防ぐことができ、堤防未整備の阿久津地区では、浸水した水が家屋の50m手前のところまで迫っていたと聞いている。</p>		
<p>河川災害は地形に関係している。山間部の河川は流速が恐い。岸をけずり、川沿いの人家を流してしまう。中流域の河川は水位に注意が必要。山間の河川災害は沢や川沿いで起きるので線的、中流河川災害は堤防決壊などで被害が広がるため、面的と言ったりする。堤防の決壊は、何としても防がなければならない。</p>		<p>日本は険しい山々におおわれており、可住地が河川氾濫区域に集中している。歴史的にも、都市はこのような地域に発展してきた。そうした経緯の中で、住民の生命や財産を守る治水は必要です。公共事業は時間とコストがかかるが地道に取り組みたい。浸水想定区域の情報提供、ほかの市町村のハザードマップ作成に積極的に協力していく。</p>		
<p>水防の役割の一つは、川から溢れる水で堤防が破壊されるのを防ぐこと。広域被害を防ぐには、地先の防災が非常に重要。川際の努力で自分の地域が守られていることを、認識してほしい。</p>		<p>地域住民に情報を的確に伝えることの重要性を今あらためて実感している。台風9号は比較的安全といわれる群馬県でも災害が十分起こりうるとい警鐘だったのではないだろうか。平時から自治体や地域住民と連携して地域防災力を高めていきたい。</p>		

下久保ダム 奮闘記



管理開始以降最大級

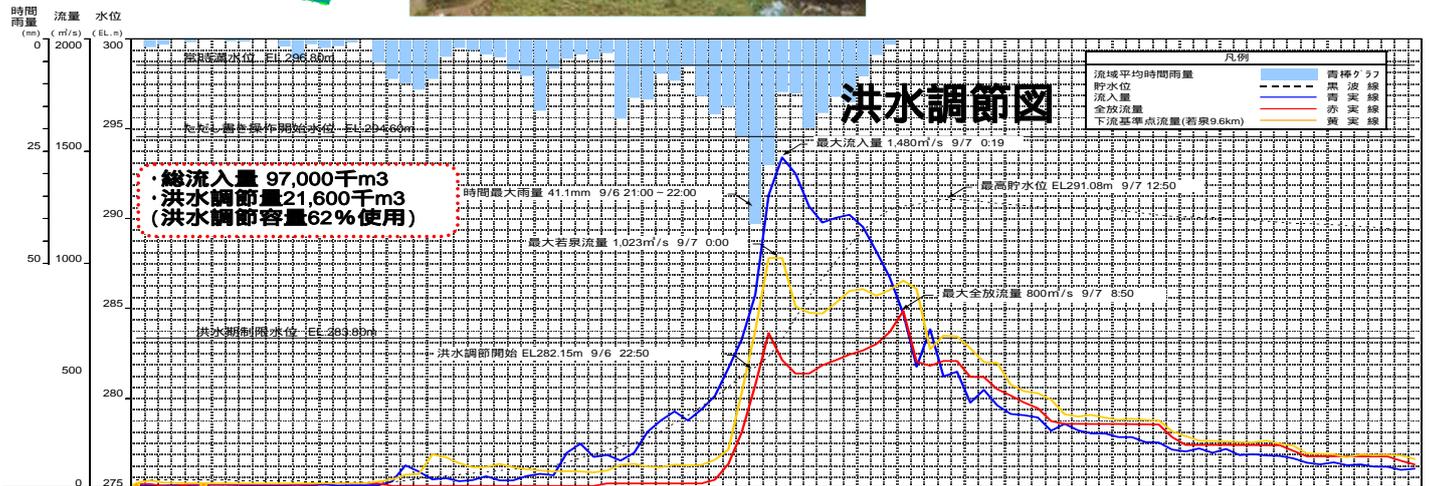
出水日 平成19年9月6～7日

流域平均雨量 417mm

最大流入量 1,480m³/s

最大放流量 800m³/s

洪水調節効果 956m³/s(最大)

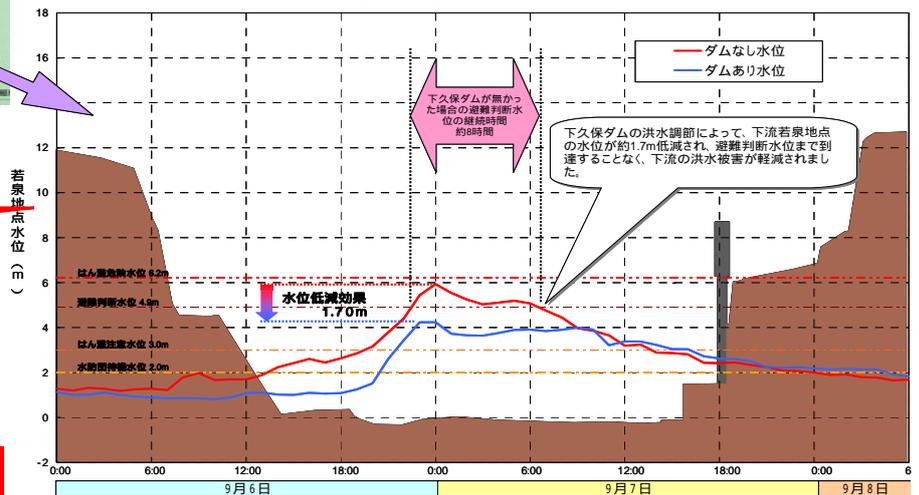


洪水調節

下久保ダムの役割

- 水をたくわえる
- 水害をふせぐ
- 川をはぐむ
- 電気をつくる

下久保ダム下流における洪水調節効果
若泉地点(烏川合流点から14km)



困った！巡視が出来ない。

下久保ダム周辺道路の通行止め
下久保ダム周辺家屋の損傷
大量の流木等漂着
濁水長期化
工事制限水位を設定し護岸工事実施

発行・問い合わせ先
国土交通省 高崎河川国道事務所 河川管理課
〒370-0841 高崎市栄町6-41
TEL 027-345-6041 FAX 027-345-6091